

議事録：平成 26 年度 第 1 回 石狩市文化財保護審議会

■日時：平成 26 年 6 月 8 日（日）15:00～17:10

■会場：石狩市民図書館 第 1 研修室

■出席者

石狩市文化財保護審議会委員

- ・村山耀一
- ・百瀬響
- ・小杉康
- ・鈴木明彦
- ・三浦泰之
- ・菅原晴美
- ・宮野裕子

事務局

- ・鎌田英暢（教育長）
- ・百井宏己（生涯学習部長）
- ・工藤義衛（文化財課長・学芸員）
- ・志賀健司（主査・学芸員）
- ・荒山千恵（主任・学芸員）
- ・奥山直樹（主任）

■欠席者

- ・加藤和子（委員）

■傍聴者

なし

■議事

1. 委嘱状交付

2. 教育長あいさつ

3. 会長・副会長の選出

委員の互選により、会長に村山委員、副会長に百瀬委員を選出。

4. 村山会長あいさつ

5. 【諮問】「石狩紅葉山 49 号遺跡の木製品」の市指定文化財指定について

教育長より諮問

工藤課長より諮問内容の説明

(※配布資料「第 1 回文化財保護審議会資料／資料 1」参照)

6. 【協議】

村山◆紅葉山 49 号遺跡の発掘場所は、実際にサケを捕獲する場所と生活する場所が離れた場所だったのか？

工藤◆紅葉山砂丘とその内陸側の標高が低いところで発見をされている。砂丘部は標高十数メートル位まであり、住居の跡が見ついている。今回指定をする予定の木製品類は、全て砂丘の内陸側の低い部分で見つかったもの。

村山◆そういう場所で、全国的にまれな木製品が出てきたということで、重要だと思っている。

小杉◆年代測定は行っているか。

工藤◆している。約 4 千年前というような説明をしたが、三千五百から四千にかかる位まである程度の幅がある。

小杉◆縄文中期のものという理解で、これまでも資料として私も使っていたが、改めて年代を確認しておいてもらいたい。また、指定物件の名称は、発掘調査報告書で使用しているものを使っていると思うが、現在では適当でないものもあるように見受けられるので、検討してもらいたい。

鈴木◆小杉委員のご質問と関連して年代については幾つかの手法を使って確認しておいたほうが良いと思う。

菅原◆年代を決定した根拠についてももう少し詳しい資料が欲しい。花粉分析のような手法も使って年代検討することもできるのではないか。

村山◆各委員の指摘のように、専門的な分野から年代についての資料を提示してもらいこと、名称を検討して頂くということで宜しいですね。

工藤◆次回の審議会では、指定候補物件を実際に見てもらおう機会を作りたい。

宮野◆紅葉山49号遺跡からアイヌのお墓は出ているか。

工藤◆江戸時代のアイヌの墓は発見されている。

小杉◆木製品の保存処理方法は？

工藤◆ほとんどが高級アルコール法で保存処理をしている。

小杉◆保存処理方法によっては年代測定ができなくなるものがある。

三浦◆同様に縄文時代の木製品が発見されている他市町村の指定状況について教えて頂きたい。

荒山◆具体的にどのようなものが指定されているのか確認して次回にご報告したいと思います。

三浦◆今回の紅葉山の資料に関しても、ゆくゆくは、国指定の重要文化財を視野にいられた形で検討しているのか。

工藤◆こういった指定制度というのは、市のレベル、道・県レベル、国レベルということで、段階がいくつかあるので、一足飛びに国のレベルというのは、なかなか難しい。今日も色々ご意見頂いたが、そういった部分についてもきちんとクリアな形で示していくことが求められてくるので、これが本当の最初の一步ということでご理解頂きたい。

小杉◆今回この指定そのものについては、非常にいい方向に動いているのだと思うし、それだけの価値があるものだとも思う。ただ、全体で十万点ある出土遺物の中で十八点が適切な数なのか、他にもある価値のあるものを今後どうしていくのかと考える必要がある。今後国の指定まで見据えて行くとする、全体として指定物件をどのように選んでいくかということを検討することも重要である。河川漁労だけではなくて集落での生活についての要素も考慮することが必要であるという意見が出た。この遺跡の内容を、過不足無く表すという点を考慮することによって、指定資料が適切に選択されていくのではないかと思う。

村山◆各委員の発言からこの木製品を文化財に指定するという事は非常に重要なことだというお考えが理解できた。次回は実物も含めて追加資料を提出して頂いて、検討したいと思う。

百瀬◆この遺跡は縄文時代前期から近世までであるという説明だったが、各時代の漁撈具を比較することはできるのか。またそういったことは考慮しているのか。同じような河川漁がずっとその地域でされて行って、その年代ごとの変遷を

見せることが出来れば、非常にいい意味があるなと思う。

鈴木◆遺跡のある場所は約六千年前まで海で、それがだんだん陸地になっていったので、新しい時代にはもう川がなくて鮭が上がってこない場所になってしまっていたかもしれない。そういった環境や地形の変化と密接に関わりのある遺跡で発見された道具だというところが非常に貴重なところであり、指定する意味、非常に価値のあるところだと思う。

村山◆非常に貴重なものであるということで、ぜひ指定する方向で次回も話し合っ
て行きたいと思う。また、一つ、追加してみたいと思うのは、柵というのは非常に珍しい、こんな弱々しいものが残っているのだから、これを支えていた杭も指定の中に入れてもいいのかなと思った。

工藤◆次回は、指定候補とともにその他の木製品見て頂きたいと考えている。また遺跡全体についての解説資料をお示ししたい。今日もご指摘があったが、文化財の価値は、その遺跡や時代をどういう風に位置付けるかということと密接な部分がある。これから紅葉山49号遺跡の価値に対する考え方が定まってくると、追加で入れるべきものも出てくるのかなと思っている。

菅原◆紅葉山49号遺跡のモノだけではなく、どのような状態でそれが地中に埋もれたのかとか、周辺の人々の生活は何なのかということを経験した人に見てもらって、理解してもらって周辺の状況がわかった上で議論した方がいいかなと思う。例えば、砂丘の風資料館のジオラマなどを見ながら話が出来て、そのうえで遺跡の象徴的な出土品を考える、という風に思うのです。資料館であれば昔の地形図であるとか、周辺環境の変遷なんかも、わかりやすいような展示もあったかと思えますので。

村山◆我々が資料館に行った方が、実際に見やすいし、他の説明と一緒に聞いて資料の重要性というのをわかっていくわけですから、事務局の方で次回の場所も含めて検討して頂きたいと思えます。

～報告案件～

(省略)

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成26年9月9日

石狩市文化財保護審議会 会長 村山耀一